

鹿児島県柔道会だより

■発行人/北 哲郎 ■編集/総務部編集委員会 ■発行/財団法人鹿児島県柔道会 (電話 099-222-7770)

上村春樹講道館長・全柔連会長講演

＝平成22年度柔道指導者講習会＝



(「指導者に希望すること」と題して熱く語る館長)

鹿児島県総合体育センターとの共催で毎年開催している、柔道指導者講習会は今年35回目を迎えるに当たり、特に、上村春樹講道館館長・全日本柔道連盟会長に講演を依頼した。

館長は、チュニジアから帰国早々にも関わらず、北哲郎県柔道会長の要請に快く応えられ、90分間に渡って熱弁を振るわれた。

講道館柔道がこのように普及してきた理由は、競技としての魅力だけでなく、創始者嘉納治五郎師範の位置づけられた柔道修行の究極の目的である「己の完成」「世の補益」という教育面が、世界の人々に受け入れられたものと思われる。現在IJFの加盟国は199か国を数え日本の柔道が世界に普及したことは喜ぶべきことだが、試合に勝つことだけに執念を燃やす競技柔道が拍車をかけ、柔道本来の「正しく組んで柔道をする」場面が失われ、試合時間中ほとんど組まずに試合が行なわれている。試合中、上体を曲げ1メートル以上は頭を上げない「1メートル柔道」なるものが横行している。膝を曲げる柔道はあっても腰を曲げる柔道はない。そこで今回、大幅に柔道のルールが見直しされた。

特徴的なものとしては、「正しく組んで一本取る」柔道本来の姿に戻すために「いきなりの足取りの禁止」の話があった。

このルールで被害を被ったのは、双手刈り、朽木倒し、搦り投げ、肩車、捨身の小内刈り等々。これらの技を掛けたら「即反則負け」。

双手刈りや捨身の小内などは体の小さなものが奇襲作戦として、飛び道具として使った技だけに、また、肩車は柔道随一の豪快な技であっただけにこのような「技の芸術品」が消えていくことに一抹の寂しさを禁じ得なかった。

その後も、館長の話は淀みなく続く。中学校時代に柔道を始めた切っ掛け、高校時代の恩師の話、大学時代の神永昭夫先生の話に至っては、特に熱を込めて話をされた。

指導者に望むこととしては、

① 怪我をさせてはいけない。

スポーツの中で負けることから教えるのは柔道だけである。受け身をしっかりと。

② 目標を持たせる。

③ 勝因と敗因を理解させる。

勝因にはラッキーがあるが敗因にはアンラッキーはない。

次に、心・技・体の話が興味深かった。

心・技・体の中で一番簡単なのは「技」で次が「心」である「体」は自分の力ではどうにもできない。

最後に、三つの大切なことを強調された。

① 続けることの大切さ

② 量をこなすことの大切さ

③ 当たり前なことをきちんとやることの大切さ

指導者は「選手にやる気を起させる」、「指導者は常に勉強しなければいけない」と熱弁を振るわれた。しかもずっと立ちっ放しで、その氣迫と迫力に圧倒される200名近くの参加者たちは感動、「館長ワールド」の中で90分間身じろぎもしなかった。

平成22年度定期総会

平成22年度の財団法人鹿児島県柔道会の定期総会は、4月24日(土)15時30分から、鹿児島市名山町のアクアガーデン・ホテル福丸に於て開催された。

開会に先立ち、北哲郎会長は、平成22年度の基本方針を述べた。

平成22年度基本方針

1 嘉納師範の理想とする「柔道を通じた人づくり」「人間教育としての柔道」の推進

2 「武の国薩摩」復活を目指した競技力向上

3 新公益法人制度への移行作業

本年度も昨年同様、「教育柔道」と「競技力向上」を最重点課題として、より以上の成果を目指して強力に推進し、少年男・女、成年女子の国体出場権獲得を目指し、選手の強化育成はもちろんのこと、青少年の育成や、指導者の養成・資質向上など柔道の普及振興を積極的に図り、それにより県民の心身の健全な発達に寄与し、豊かな人間性を涵養することを目的とし、諸事業を幅広く展開していく。

大会関係

● 九州高校総体柔道(6/19～20)鹿児島アリーナ

● 国体九州ブロック柔道(8/22)鹿児島アリーナ

上位入賞はもちろん、少年男女、成年女の国体出場を目的に選手強化と充実した大会運営に取り組み、大会を成功させる。

県内大会においては、幅広く多くの人々が参加しやすいように大会要項等の見直しを行う。

指導者に関しては、指導者講習会(少年・学校・強化指導者等)の開催により資質向上を図る。

「中学校武道必修化」に伴い、基本を重視した安全かつ興味をもてる授業のための講習会の開催。

「薩摩柔道ルネッサンス宣言」の推進

登録人口の拡大に向けた取り組み

総務部関係

1 新公益法人への移行 定款の作成

2 「柔道会だより」の発刊

3 表彰の推進

4 柔道ルネッサンス関係(各種大会でのスピーチ)

5 造士館の管理運営

事業部関係

1 県内大会要項の見直し

2 少年柔道指導者育成と底辺の柔道人口拡大の検討

3 「形」を取り入れ参加意識を高揚する

審議部関係

1 昇段試験 本部の冬季昇段試験を春季に変更

2 「形」講習会

六段・女子四段以上 九州・県両方で実施

3 申請手続き関係 内容の周知徹底

審判委員関係

ライセンス取得

A 各県2名

B 6/26 九州一斉に実施

C 5/13～14 県柔道指導者講習会

強化部関係

1 強化訓練の内容充実を図る

2 国体への意識改革

3 選手選考「ふるさと選手」の積極的導入

登録部関係

1 各種大会申し込み時の役員・選手の登録チェック

2 「女性登録推進」活動の強化

3 「未就学児」の保険加入促進

昨年度の本県柔道会の登録者数は、100パーセントを超えた。九州において100パーセントを超えた県は、長崎県と本県の2県だけで、全柔連や九州柔道協会に対しても会長として大いなる誇りとのこと。和田茂市登録部長は、一発花火で終わらぬよう今年も頑張るとの決意を述べた。

役員追加並びに交代

追加 顧問医 具志堅 隆

交代 評議員 長倉幸蔵 → 西園和昭

事故防止委員会 全柔連からの緊急指令により同委員会を総務部内に設置、5月6日常務委員会で承認され、すでに全柔連への報告もなされた。総会後のことでもあり紙面を持って報告します。

部長 堀之内俊隆 総務部副部長(常務理事)

委員 西園和昭(高体連)

古賀雅弘(中体連)

林 岩宏(少年部)

ルネッサンス活動報告実践報告

薩摩柔道ルネッサンス宣言(修道館)

2006年の講道館発行の月刊誌「柔道」に、本県の北哲郎会長が「薩摩の郷中教育と柔道」について寄稿しましたところ、思わぬ反響を呼び県内外から幾多の質問や詳しい内容について知りたいとの問い合わせが殺到し、その対応に追われたという経緯があります。

そこで早速、巻頭言で反響を呼んだのを機に「薩摩三訓」(負けるな。嘘を言うな。弱いものをいじめるな。)をなんとか「柔道ルネッサンス」に生かす手立てはないかとの会長の発案で、「三訓」を取り入れ「薩摩柔道ルネッサンス」を作成しました。

薩摩柔道ルネッサンス宣言

私たちは、柔道を通して

- 一つ 立派な人間になります。
- 一つ 弱いものをいじめません。
- 一つ ウソをつきません。
- 一つ 礼儀を正しくします。
- 一つ 自分に負けません。

試みとして、県下少年柔道大会で選手宣誓のあとに付けて、参加選手全員に1箇所ずつ復唱させました。

これが大好評を博し、今ではすっかり定着し、県大会は言うに及ばず支部の大会でも実施しているとの報告を受けています。

今回は、道場において実践している例を紹介します。

「修道館」は、県下で最も古い歴史と伝統を持つ町道場です。大正13(1924)年、故林岩三九段(本県元会長)が設立された道場です。

この修道館では、毎日の稽古の前に「薩摩柔道ルネッサンス」を復唱してから稽古に入るとのことです。

今年(平成21年)は特に、夏休みを利用してアメリカ在住の修道館館長林岩男八段のお孫さん3人も稽古に参加され、声高らかに宣誓してから稽古されたということです。しかし、そこはアメリカ育ち、日本語の宣誓だけでは物足りなかったのか、小学校5年生のお孫さんが英訳されて、それをみんなで宣誓復唱したといえます。林岩男八段にカセットテープを頂きましたが、子どもたちの流暢な発音に、柔道会役員一同びっくりした次第です。

鹿児島から発信した「薩摩柔道ルネッサンス宣言」がアメリカに渡り、やがて世界に雄飛する。なんと壮大で夢のある話でしょう。

最後に、本県では中学生に対しての標語募集並びに優秀作品の表彰等の啓発活動も行なっています。

(財団法人鹿児島県柔道会副会長 木原紀幸)

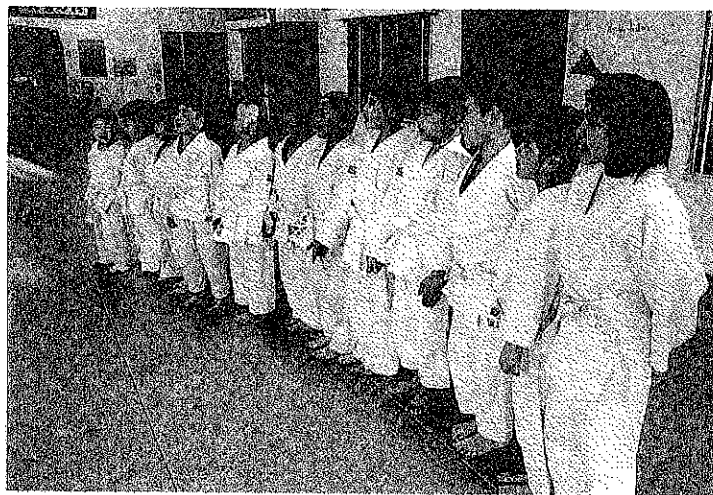
全柔連評議員会の配布資料から転載

英文ルネッサンス

This is Satuma Judo Renaissance Declaration

We all that do Judo,

1. We all be a better person.
2. We don't tease a weak and little people.
3. We don't be a liar.
4. We all be polite.
5. Don't lose by yourself.



練習前に「柔道ルネッサンス宣言」を復唱する子どもたち

田邊侑氏を派遣

5月14日(金)・15日(土)に講道館で開催された「柔道ルネッサンスフォーラム」に、本県柔道会からルネッサンス委員長の田邊侑理事を派遣した。詳細については次号で紹介いたします。

※「柔道ルネッサンススピーチ集」(2004年～09年)を柔道ルネッサンス特別委員会が発刊
きたえよう 心と体を 柔道で 下山勝栄(坊泊中1年)

1 2団体と2個人を表彰

—第20回鹿児島県柔道選手権大会—

1月30日(土)の第20回鹿児島県柔道選手権大会を記念して、北哲郎会長は、永年、大会に協力頂いた12団体と永年出場の2人の表彰を行なった。(あいうえお順)

広告協賛 感謝状贈呈

- ※ アクアガーデンホテル福丸
- ※ アリーナサイド牧医院
- ※ 医療法人 青雲会 青雲会病院
- ※ 鹿児島工業高等学校柔道部 OB会
- ※ 鹿児島実業高等学校柔道部 OB会
- ※ 鹿児島大学柔道部同窓会
- ※ 株式会社 デポックス商事
- ※ 株式会社 山崎商会
- ※ 株式会社 森山タイル
- ※ 社団法人 鹿児島県柔道整復師会
- ※ 浜崎デンタルクリニック
- ※ 有限会社 花のかしわざ

永年出場者表彰

- ※ 中尾小都枝(日置), 宮元成美(鹿児島警)



(第20回鹿児島県柔道選手権大会の表彰式)

(道場だより) シリーズ⑦

光武館道場の歩みと現況

館長 内村 純 博

平成元年6月、鹿屋市白崎町に町道場として、小学生5名でスタートしました。

同年10月の道場開きには、山下泰裕先生にお願いしご指導を頂きました。その後も数多くのメダリストの先生方にご指導を頂く機会を得られました。

大隅には、田崎スポーツ少年団、志布志スポーツ少年団、末吉スポーツ少年団など、全国でもトップレベルの道場があり、私自身、少しでもこれらのチームに近づけるよう努力してきました。その結果、今回、第30回全国少年柔道大会に出場することができました。

鹿児島県代表として1分でも1秒でも長く講道館で試合ができるよう、子どもたちと1戦1勝の心で挑みました。

1回戦、山口県の萩中家塾に3対0、2回戦、秋田県の小反唯心塾に1対0で勝ちましたが、3回戦、東京の臥牛館道場に1対3で敗れてしまいました。

全国の体力と技術の高さを勉強させられ、今後の課題も見つかりました。なにより、子どもたちが次に繋がる貴重な体験ができたことで、さらに成長できたことに感謝しています。

今後は、試合、練習はもちろん、子どもたちが少しでも柔道に興味を持ち、柔道人口を一人でも多く増やすことに、力を注がなければと思います。

野球・サッカー人気の中で、各道場の指導者の先生方と連携を取り合いながら、底辺拡大のためにいろいろな計画をたて、地域全体で支えていくことが大切だと思います。

最後に、全国大会出場に当たり、ご指導、ご協力を頂きました県柔道会会長始め、県柔道会の諸先生方、肝属地区柔道会の先生方に心からお礼申し上げます。



(全国少年柔道大会の開会式)

支部だより ⑩

「指宿柔道回想」

指宿支部長 田村 信 弘

財団法人鹿児島県柔道会指宿支部のこれまでの長い歴史を振り返ってみますと、戦前の指宿地区の柔道は、伊地知重行医師が郷里の若者を鍛えんとし、自ら建てた道場「自彊館」と旧制指宿中学校を中心に盛んな稽古が行なわれていました。

今井功、肥後栄春、肥後道雄など実力者を擁した指宿中学校は、鹿児島商業と並ぶ強豪として県下に名を上げた時代もありました。

「自彊館」「指宿中学校」の先輩方、特に、今井功先生の後輩で教職に就かれた先生方が学校柔道を、一般の方々が公民館柔道の柔道熱を高めていただき、今日に至っていると感慨深く感ずるところです。

戦後は、指宿警察署の道場が週2回、一般に開放され、一般の初心者(小生)から柔道歴のある様々な方々が見えられ、一心不乱に汗を流していました。

現在のように娯楽施設がある訳でなくテレビなどもなく、柔道が青少年の憧れであったと思います。

また、小牟礼明先生(6段:旧海軍時代に陸・空・海・参軍属の天覧試合に出場された方)が二代目館長として「自彊館」を自宅の庭先に開き、指宿の戦後柔道復興に尽くされ、昇段試験を鹿児島市まで行って受けなくとも地元で受験できるようにと、指宿支部なる組織を立ち上げていただきましたが、残念ながら、間もなく亡くなられました。

その後、竹之内省吾先生、今井功先生、今吉敏昭先生と支部長を歴任、素晴らしい先達に恵まれ、指宿支部は、主に青少年の育成活動を中心に活動してまいりました。

チーム数は、スポーツ少年団が10チーム位、中学校の部活動は9チームあった時代もありましたが、現在では、スポーツ少年団は指宿柔道少年団と山川武道館、中学生は、山川中学校のみの登録となっています。

平成の時代に入り、山川町が立派な町立武道館を建設していただきました。武道関係者待望の施設誕生に

山川の柔道熱が高まりを見せてきました。

当時、指宿警察署大山駐在所に赴任された嶺博史先生が廃部状態であった山川中学校柔道部を再興させ、初代監督として礎を築いてくださいました。

その後、山川武道館、山川中学校が徐々に力をつけ、平成11年に山川武道館が県大会で初優勝、平成15年、17年、18年に山川中学校が女子団体が県大会優勝を果たしました。

個人戦におきましても、20名が小・中・高の県大会で優勝団体戦での優勝経験者を含めると30名が県大会で優勝しております。県大会優勝第1号は、嶺先生の次男嶺直樹選手であったと記憶しております。嶺直樹選手は、鹿屋農業高校時代にはインターハイの無差別級で3位入賞、大学時代には、あの鈴木桂治選手を豪快に投げつけて中央大学の全国優勝に大いに貢献しました。

平成14年度には、大木千夏選手が全国中学校柔道大会44キログラム級で優勝しています。田舎の公立中学校からの全国チャンピオン誕生の快挙は、後に続く後輩たちにも刺激を与え、数々の県大会優勝者の輩出に繋がったと思います。

九州大会優勝者は、前出の嶺直樹選手、大木千夏選手に加え、内村明寿香選手、大木千佳選手が、それぞれ2回ずつ優勝しております。

また、蔵菌光志選手が甲陵高校の一員として全国高等学校総合体育大会(インターハイ)団体戦3位入賞、古賀ちなつ選手が鹿児島南高校の一員として金鷲旗争奪全国高校柔道大会3位入賞など全国レベルで活躍しました。

このような、子どもたちの活躍の背景には、平成2年から、ほとんど欠かすことなく、毎年のように鹿屋農業高校、甲陵高校の合宿地として山川を指定していただき、その都度、高校生の稽古の合間をみて、地元の小・中学生に技術指導をしていただいた和田茂市先生のお力も多大なものであったと感謝しております。

指宿支部は、これからも武の国薩摩の柔道発展のために微力を尽くして参る所存です。

郷里指宿の大先輩方が終始一貫、貫いてこられた自然体でしっかり組み合う正しい柔道、何よりも「精力善用」「自他共栄」の柔道精神を後世まで伝承していくのだとの強い気概を持った指導者の育成を念頭に置き、柔道修行に精進したいと決意する次第です。

《大会記録》

団体 重富中学校が優勝

個人は上野公大(阿久根中)

第34回鹿児島県中学校新人柔道大会(法元保晴杯争奪戦)は2月14日鹿児島アリーナ武道場で開催された。成績は以下の通り。

【男子団体】

- 優勝 重富中学校
2位 鹿屋東中学校
3位 帖佐中学校
3位 中種子中学校

【男子個人】

- 優勝 上野公大(阿久根中学校)
2位 保池玄太(宇検中学校)
3位 徳田力也(隼人中学校)
3位 早水湧一朗(出水中学校)

【女子個人】

◆ 44kg級

- 優勝 田中美佳(帖佐中学校)
2位 前田千島(財部中学校)
3位 水口佳奈(串木野中学校)
3位 道場有希(川内中央中学校)

◆ 48kg級

- 優勝 田中優紀奈(川辺中学校)
2位 白澤沙也加(串木野西中学校)
3位 橋口理佳(川内中央中学校)
3位 新原知夏(高山中学校)

◆ 52kg級

- 優勝 永田あいり(伊敷中学校)
2位 羽田奈津美(川内中央中学校)
3位 野村美咲(牧之原中学校)
3位 梶原春樹(里中学校)

◆ 57kg級

- 優勝 永田ひかり(伊敷中学校)
2位 大久保来来(川辺中学校)
3位 園田奈緒(立神中学校)
3位 蜂須賀杏奈(鹿屋東中学校)

◆ 63kg級

- 優勝 湯之上歩惟(山川中学校)
2位 牧田朱加(川辺中学校)
3位 馬場のどか(串木野中学校)
3位 松尾 巴(財部中学校)

◆ 70kg級

- 優勝 青柳美希(舞鶴中学校)
2位 木佐貫千夏(鹿屋東中学校)
3位 吉永由麻(山川中学校)
3位 花田夕稀(川内中央中学校)

◆ 70kg超級

- 優勝 福崎 舞(鹿屋東中学校)
2位 鬼塚葉瑠奈(伊敷中学校)
3位 山下里奈(中種子中学校)
3位 辰島千夏(宇検中学校)

光武館が初優勝

第27回県下少年新人柔道大会(第30回全国少年柔道大会鹿児島県予選会・法元保晴杯争奪戦)

- 優勝 光武館(肝属)
2位 かわなべ(南薩)
3位 青 雲(始良)
3位 正道館(鹿児島)

春から異変?! =軽量級選手が大活躍=

1月23日(土)・24日(日)の県高校柔道選手権大会を皮切りに、1~2月は、県柔道選手権大会及び県柔道女子選手権大会、県下中学校柔道大会、県下少年柔道大会と柔道会の主催行事が続いた。

その中で、高校大会の無差別級個人戦において、50kgものハンディを跳ね返し見事3位に入賞した田中光(鹿児島商業高校)選手の記事を南日本新聞社は「曲走路」で取り扱っていた。

春から異変などという失礼だが、今年は特に軽量級選手の大活躍が目立ち、春から縁起がよい。

女子選手権では、森崎由理江(鹿屋体育大)選手、48kgが、中学大会では、保池玄太(宇検中)選手65kgが決勝進出し100kgを超える選手と堂々と戦い試合場を沸かせた。また、光武館(少年)、重富(中学)、鳳凰(高校女子)はいずれも初優勝。

《大会記録》

男子 甲陵・明桜館 女子 鹿南

平成22年度鹿児島県高等学校体育大会柔道競技

5月26日(水)・27日(木) 鹿児島アリーナ

【男子団体】 優勝 甲陵・明桜館高等学校
2位 鹿児島情報高等学校
3位 鹿児島工業高等学校
4位 れいめい高等学校

【女子団体】 優勝 鹿児島南高等学校
2位 鳳凰高等学校
3位 種子島中央高等学校
4位 出水中央高等学校

【男子個人】

◆ 60kg級 優勝 稍脇健太(れいめい高校)
2位 前田力丸(鹿児島実業高校)
3位 羽生勝喜(鹿児島実業高校)
3位 井田龍太郎(鹿児島南高校)

◆ 66kg級 優勝 豎山 将(鹿児島情報高校)
2位 増田雅矢(れいめい高校)
3位 田中 光(鹿児島商業高校)
3位 牧瀬武蔵(鹿児島商業高校)

◆ 73kg級 優勝 茅野圭祐(鹿児島商業高校)
2位 中釜貴文(鹿児島商業高校)
3位 遠矢昴弘(れいめい高校)
3位 松山昇仁(徳之島高校)

◆ 81kg級 優勝 児玉桂一(鹿児島水産高校)
2位 上中別府健(甲陵・明桜館高校)
3位 福満 仁(れいめい高等学校)
3位 盛田勝義(甲陵・明桜館高校)

◆ 90kg級 優勝 矢櫃晃生(鹿児島情報高校)
2位 小林啓太(鹿児島工業高校)
3位 竹下恭平(甲陵・明桜館高校)
3位 岩元宝泰(鹿児島情報高校)

◆ 100kg級 優勝 山平隆太(甲陵・明桜館高校)
2位 若松秀平(鹿児島情報高校)
3位 嶋 航平(鹿児島情報高校)
3位 菱刈風輝(れいめい高校)

◆ 100kg超級 優勝 秋山湧希(鹿児島情報高校)
2位 溝口恵祐(鹿児島工業高校)
3位 満永晋作(鹿児島情報高校)
3位 大津聡一郎(甲陵・明桜館高校)

【女子個人】

◆ 48kg級 優勝 児玉千春(鹿児島南高校)
2位 福山さくら(鹿児島南高校)
3位 稲村夏紀(徳之島高校)
3位 天野江美(鹿屋工業高校)

◆ 52kg級 優勝 西村和華子(鹿児島南高校)
2位 烏帽子美咲(鳳凰高校)
3位 上西莉子(隼人工業高校)
3位 柿木田江梨(鹿児島南高校)

◆ 57kg級 優勝 新村夏美(鹿児島南高校)
2位 上村もも(鹿児島南高校)
3位 牧瀬あかり(種子島中央高校)
3位 小林愛鈴(鳳凰高校)

◆ 63kg級 優勝 榎谷有里(鹿児島南高校)
2位 松原美穂(種子島中央高校)
3位 新原結希(鹿屋高校)
3位 前原由希(鹿児島高校)

◆ 70kg級 優勝 高山莉加(鹿児島南高校)
2位 蔵菌めぐみ(鹿児島南高校)
3位 長野希美(鳳凰高校)
3位 堤 千帆(出水中央高校)

◆ 78kg級 優勝 吉時 恵(鹿児島南高校)
2位 坂元嘉乃(奄美高校)

◆ 78kg超級 優勝 稲森奈美(鹿児島南高校)
2位 吉永美英由(鹿児島城西高校)

2日間にわたる大会は、男子団体は甲陵・明桜館高校のV6で女子団体は鹿児島南高校の12連覇で幕を閉じた。

女子個人は、鹿児島南が全7階級を制覇したが、63kg級の榎谷有里選手、70kg級の高山莉加選手はともに1年生で将来が楽しみである。男子は鹿情報が3階級で優勝。

なお、団体1位と個人各階級1位は、8月8日(日)～12日(木)沖縄で開催される全国大会に、団体1・2位、個人各階級1・2位は、6月19(土)・20日(日)鹿児島アリーナで開催される九州大会に出場する。8年に1回地元で開催される九州総体選手の健闘を心より祈りたい。応援をお願いします。

○ 柔道指導者講習会報告

5月13日(木) 第1日目

○ 講話「指導者に希望すること」

上村春樹(財団法人講道館館長)
(財団法人全日本柔道連盟会長)

○ 講義 I

「国際柔道連盟試合審判規定・少年規定」
北 菌 季 康(鹿児島県警察本部警務課)
田 中 総 一(同上)

5月14日(金) 第2日目

○ 実技 I

「投の形」 山 野 修(加治木中学校)
西 有生央(金久 中学校)
児 玉 拓 也(帖佐 中学校)

○ 演 習

「得意技」 上 村 正(鹿児島西警察署)

○ 実技 II

「指導法」 篠 原 貞 二(出水中央高校)
中 尾 小都枝(串木野中学校)

○ 実技 III

「固の形」 中菌雅博(鹿児島県警察本部機動隊)

○ 実技 IV

「指導法」 堅 山 浩 治(舞鶴中学校)
中 尾 小都枝(串木野中学校)

○ 実技 V

「審判法」・「高段者試合」
北 菌 季 康(鹿児島県警察本部警務課)
田 中 総 一(同上)

● 伝 達 「女性指導推進事業報告」

宮久保 美 鈴(谷山中学校)
中 尾 小都枝(串木野中学校)

女性指導者推進事業は、全柔連登録増進を目的とした「女性柔道活動促進」事業を展開することから始まった。本県では、高校・大学ともに女子部員が多く活動しているが、卒業後の活動に関しては、他県と同じように活動する場所が少ないのが現状。そこで女性柔道活動促進委員会を中心に、地域における女子柔道経験者を積極的に発掘し、女性指導者を増やしてその活動を促進することを目的とする。

昨年の6月に、講道館で平成21年度の女性柔道指

導者セミナーが開かれ、登録普及についてや、女性指導者の現状についての話、グループディスカッション等が行なわれた。また、昨年10月と今年2月には福岡で地区の会合も行なわれた。特に感じたことは、
・ルールについて・登録について・登録費について
・昇段について・柔道ができる環境について・指導に当たった際に生じた問題等について、等々。

鹿児島大学医学部が2位

第49回九州・山口医科学生体育大会柔道競技は、4月17日(土)・18日(日)の2日間鹿児島アリーナ武道場で開催された。

【団体予選リーグ】(関係分)

鹿児島大学 1 - ② 久留米大学
鹿児島大学 ③ - 2 九州大学

【団体決勝トーナメント】

準決勝 鹿児島大学 ③ - 1 福岡大学
決 勝 鹿児島大学 1 - ② 久留米大学

【個人重量級】

2位 鈴木元太郎(鹿児島大学)

【個人中量級】

2位 渡辺航太(鹿児島大学)

《今後の主な行事予定》6~9月

- 6月5日 南九州「形」講習会
- 6月12日 県ジュニア体重別(九州予選)
- 6月13日 県下中学校柔道大会
- 6月13日 全国教員柔道大会選手選考会
- 6月19日 第5回県下小学生学年別柔道
- 6月19・20日 九州高校総体柔道競技
- 7月21日 第26回少年学年別錬成大会
- 7月26・27日 鹿児島県中学校柔道大会
- 8月22日 国体第26回九州ブロック大会
- 9月18日 第64回県民体育大会柔道競技

【編集後記】今年の柔道会行事は、講道館長上村春樹先生の講演から始まりました。館長ご自身が地方の講習会で講演をされるなど恐れ多いことで、それだけに中央との太い絆を感じます。館長の意に添えるよう本県柔道会を盛り上げていきましょう。ところで、畑添勉編集長に代わり編集に携わることになりました。よろしく願います。畑添先生、長い間ご苦労様でした。(木原紀幸)